様式第３号

令和７年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	76	学 校 名	静岡県立浜松東高等学校		校 長 名	鈴木　真一

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	たくましく生きる力の育成	「欠席・遅刻・早退をしないように心掛けている」と答える生徒 90%以上。	95.7%	A	多くの生徒が欠席等をしないよう心掛けており、学校生活を大切にしている。挨拶の励行や行事、部活動等をとおして、たくましさを育んでいる。一方、長期欠席の生徒が一定数存在するとともに、一部の生徒は、体調等を整え登校することを第一に考えることができていない現状がある。今後は、担任や学年での対応にとどまらず、スクールカウンセラー等との連携をより深め、個々の生徒への対応をとおして、よりたくましく生きる力を育みたい。
		定期的な挨拶運動の実施	達成		
		「学校行事に積極的に参加し、人間関係が充実してきたと思う」と答える生徒 80%以上。	94.6%		
		「集団の中の一員として仲間を尊重し、行動できる」と答える生徒 80%以上。	97.5%		
		「部活動で頑張っている」と答える生徒 90%以上。	90.9%		
		「芸術鑑賞教室が良かった」と答える生徒 80%以上。	94.5%		
	生徒が相談しやすい体制つくり	「悩みを相談できる人がいる」と答える生徒 80%以上。	91.2%	A	学年・担任を中心に日頃から声掛けを行うことで、信頼関係を構築している。定期訪問では、発達支持的生徒指導」を研修テーマとして実施した。また、センター的機能を活用し、浜松みをつくし特別支援学校の先生を講師としてお招きし、事例検討会を実施した。
		発達支持的生徒指導や特別支援教育に関する研修の実施	達成		
	規範意識の醸成	「日頃から個人情報の取扱い等に注意している」と答える生徒 90%以上。	97.7%	A	落ち着いた学校生活を送っている状況がアンケート結果から捉えられる。しかし、さわやかな挨拶及び身だしなみについては、強い肯定回答が 60.3%であり、昨年度（62.7%）より若干減少している。今まで以上に教員から積極的に挨拶をしていく姿勢で接し、否定回答層を動かしたい。
		「学校のきまりを守って生活している」と答える生徒 80%以上。	99.2%		
		「さわやかな挨拶ができ、身だしなみに気を付けている」と答える生徒 80%以上。	98.4%		

様式第３号

	災害及び交通事故から身を守る意識の向上	「交通ルールを守っている」と答える生徒90%以上。	98.4%	A	交通ルールを守っていると答えている生徒は多いが、交通事故は10件程発生している。今後も、引き続き交通安全の啓発を行っていきたい。
		「災害発生時に備え、時と場に応じた避難先・経路を把握している」と答える生徒80%以上。	85.5%		
	環境整備	「日頃から私物の整理整頓、教室等の環境整備（清掃含む）を意識している」と答える生徒80%以上。	93.9%	A	保健厚生課や学年、担任からの働き掛けにより、おおむね環境整備がなされている。
	危機管理対応	危機管理対応に関する研修を実施する。	実施	B	毎月実施している不祥事根絶研修の中で実施した。
イ	基礎学力の定着	「授業内容に興味・関心が持てた」と答える生徒90%以上。	89.2%	B	授業への取組は真面目である。朝学習（朝読書）も一定の成果が得られている。今後も授業改善を重ね、より授業への主体的な参加を促す仕掛けを考えていく必要がある。
		「朝学習（朝読書）が基礎学力向上に役立っている」と答える生徒80%以上。	82.5%		
	探究活動の充実	「学んだことについて、考え、表現する力を伸ばすことができた」と答える生徒80%以上。	90.0%	B	学年ごとの傾向を調べてみると、３年生の強い肯定回答の数値が15ポイントほど高くなっている。３年間の成果と捉えられる一方、１年生で始めた新しい取組の検証が必要である。近隣の学校でコンソーシアムを構築したが、他校からも学ぶとともに、検討委員会を機能させ、より良い探究活動につなげる。
		「総合的な探究の時間での探究活動を通して、成長を実感している」と答える生徒 60%以上。	85.5%		
		総合的な探究の時間検討委員会の定期的な開催	未達成		
	教科指導力の向上	年２回以上の授業参観と年２回の生徒による授業評価が活用されている。	おおむね達成	A	初任研などの年次研修に係る研究授業を多くの教員が見学し、授業者と対話することをとおして、双方の学びにつながった。授業の内容に興味・関心を持つ生徒が多いことは喜ばしい。また、一台端末についてはすべての生徒が活用している状況ではあるが、より効果的な活用方法を模索していく必要がある。
		「授業の内容に興味、関心を持てた」と答える生徒80%以上。	89.2%		
		「授業やＨＲ活動等で、一台端末を活用した情報の送受信や、授業の課題提出を実施した」と答える生徒90%以上。	96.2%		
	資格取得への挑戦	自ら設定した資格取得に対する目標を達成する生徒の割合80%以上	82.0%	A	商業科、国語科、英語科を中心に、資格取得への挑戦を意識づけている成果が出ている。
ウ	**地域との連携**	「学年行事や授業等で行った地域連携学習に携わった」と答える生徒が50%以上。	77.4%	B	地域連携学習に携わった生徒が多いことがわかるが、生徒が何を地域連携学習と捉えているの

様式第３号

		「課外活動（部活動を含む）で行った地域連携学習に携わった」と答える生徒 50%以上。	66.7%		かを教員が十分に把握できていない。また、地域連携の重要性を体感できていない生徒が一定数存在することから、地域連携学習について、より教員の共通理解を図り、生徒に伝えていく必要性を感じる。今後は、商業科における地域連携の深まりと、普通科の地域連携の今後の方向性等について検討していく必要がある。
		「社会に役立つ姿勢や資質を身に付ける教育が行われている」と答える生徒、保護者 80%以上。	生徒 92.8% 保護者 87.1%		
		「学校外の諸活動を通して、学校と地域との連携の重要性を体感できた」と答える生徒 80%以上。	73.8%		
	進路学習の充実	「自分の将来の生き方（進路等）について考えている」と答える生徒 90%以上。	87.1%	B	保護者には本校の指導が伝わっている。生徒についても、自分自身の生き方について考えている様子がうかがえるが、10 数%の否定層について、今後も丁寧に関わっていく必要がある。
		「生徒の適性や希望を生かす適切な進路指導を行っている」と答える生徒、保護者 80%以上。	生徒 93.8% 保護者 85.1%		
エ	広報活動の充実	地域の回覧版で情報提供をする。	実施	A	地域の回覧板や協働センターで情報提供した。 中学校への訪問は管理職による訪問と商業科教員による出前授業等を合わせて 69 校実施した。 浜東祭　977 人 一日体験入学　約 1,000 人 オープンスクール　190 人
		学校紹介や出前授業等による中学校への訪問　年間 50 校以上。	達成		
		来場者数 浜東祭：1,000 人以上 一日体験入学：1,000 人以上 オープンスクール　300 人以上	ほぼ達成		
	保護者との良好な信頼関係の構築及び情報発信	「保護者に対して行事や進路等の情報提供が適切に行われている」と答える保護者 80%以上。	84.8%	A	学校から随時行っている情報提供について、評価をいただいている。今後も継続していきたい。 個別の対応については、担任や学年の教員の丁寧な関わりに依存している部分が大きいが、今後は、より組織としての対応を構築していく。
		情報の発信がＰＴＡ総会、発行物、Ｃラーニング等により定期的に行われている。	達成		
		「お子さんを本校に入学させて良かった」と答える保護者 90%以上	90.5%		
オ	**協働意識の涵養**	朝の打合せや職員会議等の隙間時間を活用したプチ研修を実施する。	ほぼ達成	B	チーム研修では予定時間を超えて対話が起こるなど、充実した研修となっている。職員会議後は毎回研修を実施し、一定の成果を上げている。
		年次研修対象者が、チーム研修を通して成長したと実感している。	達成		
	業務の効率化	提案資料には目的を記載する。	未達成	C	業務用のパソコンが更新され、作業効率が特段にアップした。 業務の効率化については、今後も大きな課題の一つである。
		運営委員会をペーパーレスで実施する。	未達成		
	働き方改革	ストレスチェック集団分析でのストレスリスクを確認する。	達成	C	ストレスチェック集団分析によると、リスクは低い結果であった。しかし、時間外在校等時間が月当たり 45 時間を超える教員
		出張による振替や変形労働制度を積極的に利用し、超過勤務	不十分		

様式第３号

		の負担軽減に繋げる。			が 20 人程いることから、業務の平準化をより進めていく必要がある。
		勤務時間管理システムで自らの働き方を把握する。	不十分		
	効果的な予算執行	管理的予算を当初予算比５％削減し、教育活動に係る経費に充てる。	達成	A	今後の学級数や生徒数の減少を見据え、引き続き管理的経費の削減と必要な予算の確保に注力し、効果的かつ効率的な予算執行に努めていく。
		「できないこと」は理由を示し、「できること」は執行計画を明確に示していく。	達成		